

千住の文化

とくへつ
くま
かわらばん
特別玖磨 瓦版

第3号



千住ゆかりの文人たち

俳諧 琳派、谷派……

千住は人と文化が交わり、花開いた場所でした。そのつながりの秘密に迫ります。



出典「NDL イメージバンク」(<https://ndlsearch.ndl.go.jp/imagebank/theme/hoitsuoson>) より
『鶯郎畫譜』(酒井抱一)

琳

派

江戸に生まれた

二つの美

谷

派

【特徴】

自然をデザインした遊びの美学

【足立の代表的絵師】

「酒井抱一」「鈴木其一」「村越其栄」他

【特徴】

学びと調和で築いた知の美学

【足立の代表的絵師】

「谷文晁」「二世谷文一」「船津文淵」他



出典「NDL イメージバンク」

(<https://ndlsearch.ndl.go.jp/imagebank/theme/hoitsuoson>) より

『鶯邸畫譜』(酒井抱一)



出展：足立区立郷土資料員データベース 「前赤壁之図」 谷文晁

千住酒合戦



出展：上下共に 足立区立郷土資料員データベース 「後水鳥記(闘飲図)」
(部分) 一世谷文一、大田南畝

一八一五年、千住の飛脚問屋の隠居、中谷六右衛門の還暦祝いの余興として酒の飲み比べがあり、酒井抱一、谷文晁、亀田鵬斎といった文人たちが集まりました。この時の様子を絵や詩にした「高陽闘飲図巻」という巻物は、会の二年後に開かれた二回目の酒合戦で公開されました。

これは千住の一大文化イベントとなり、足立のまちの人たちと江戸の文人たちとの交流が深まったことを象徴する出来事となりました。

つながる楽しさ

俳諧

俳諧はみんなで楽しむ言葉遊びで、後の俳句へと発展しました。

足立においても地元の人を中心に、松尾芭蕉の句を理想とした俳諧集団「千住連」が誕生しました。この千住連のリーダーが建部巢兆です。

千住の文化サロンを育む

たけべ そうちよう
建部 巢兆

江戸時代の絵師・俳人。

巢兆の元に集まる文人と彼が率いる千住連との交流により、足立のまちの人みなで書画や文芸を楽しむ気風が盛り上がりました。

巢兆のつながりにより次世代でも江戸の文人との交流が続き、酒合戦は巢兆が亡くなった一年後に開かれました。



出展：足立区立郷土資料員データベース 「巢兆句「涼しさは」句
自題賛 建部巢兆

千住に根付く琳派

ほういつ
抱一から其一へ

江戸琳派を確立した酒井抱一の住まいは江戸・下谷(今の台東区)でしたが、友人の巢兆に会うために千住に通いました。

巢兆没後に刊行された句集で抱一は「お互い俳諧や絵を作りあつては批評して、相手(巢兆)が酒を飲めば自分は餅を食べた」と追悼しています。

また、有名な弟子として鈴木其一がいます。

受けつがれる谷派

ぶんちよう

ぶんえん
文晁から文淵へ

大勢の弟子を持つ谷文晁も、下谷住まいですが巢兆や抱一らとの交流のために千住へ通っていました。

文晁の娘婿一世谷分一は後継者としての実力を認められていましたが若くして亡くなり、一世文一の子も同じ「文一」を名乗って絵師・二世文一となりました。

千住では船津文淵が文晁に弟子入りし、千住の谷派絵師としてつながっていきます。



出展：足立区立郷土資料員データベース 「鶏図」 一世谷文一

船津 文洌

上沼田村(今の足立区江北)の大農家で、絵師としても活躍しました。

琳派絵師の鈴木其一と谷派絵師の船津文洌は絵を通じた交流でお互いに影響を与え合っていたため、琳派と谷派の特徴がまざり合った作品が生まれていきました。

こうした交流や彼らに絵を発注し、楽しんだ千住のひとびとによって、次世代へ文化が引き継がれていきます。

出展：足立区立郷土資料員データベース 「恵比寿天図」 船津文洌



村越 其栄と向栄

鈴木其一の弟子の村越其栄ははじめ下谷に住んでいましたが一八四〇年に千住河原町に寺子屋「東耕堂」を開き、以降は塾主を努めつつ千住を拠点に琳派絵師としても活躍しました。

その子、向栄も学校運営と琳派を継承し、多くの展覧会を催して活発な文化活動を行いました。



出展：足立区立郷土資料員データベース 「秋草図」 村越其栄

高橋 廣湖

伝統を重視する「旧派」と革新的な日本画を創造する「新派」の流れが生まれる中で、新派の岡倉天心に才能を見出された明治期の日本画家です。

一九一二年に三十七歳の若さでこの世を去りました。



出展：足立区立郷土資料員データベース 「狗図」 高橋廣湖

明治の画家たちの応援団

「光琳派絵画展覧会」「千住光栄会」

村越向栄を顧問として各家所蔵の書画器物を展示して楽しむ会です。

「芳廣会」

高橋廣湖を支える団体。個人ではなく千住という「地域」を枠組みとして集団的に支援活動が行われました。

これまで見てきたように、建部巢兆、酒井抱一の交友から繋がってきた千住と琳派の交わりは画派も世代も越えて、地域の学びや暮らしを豊かに彩る存在でした。

絵師たちを支え、文化の灯を絶やさなかったこのまちには、「交友と創造の記憶」が残っています。